



第 144号

編集
代田・九条の会
小澤 清子
伊東 宏

代田・九条の会News

2020/11/14

itohiroshi1007@gmail.com



ホームページ : <http://www.daita-9jo.sakuraweb.com/>

12周年 これまで、そしてこれから

代田・9条の会は11月3日で設立12周年（2008年設立）を迎えました。

この間の我々の活動は、憲法を壊す「壊憲」とのたたかいであったと思えます。このたたかいは、市民の運動に大きなうねりを作り出すことができ、私たちの活動の前進にもつながったと思います。

2012年、自民党は憲法改憲草案を発表しました。改定案は、平和主義、基本的人権、主権在民、改憲要件などにわたり、現行憲法の全面改定を掲げました。核心は、憲法9条を根幹から改変し、自衛隊を「国防軍」にするとともに、集団的自衛権を認め、交戦権の否認もとりはらい、海外で戦争する国にするということにありました。

しかし、この改憲案は提案されませんでした。その理由は、草の根でつながった全国の九条の会の活動が、改憲反対の世論形成に大きな役割を果たしたことにあります。改憲内容のあまりの過激さに有権者が反発したことも事実です。

安倍氏は、12年12月に首相に復帰して以来、約8年間にわたり、「壊憲」を押し通しました。14年7月には、歴代政権が違憲であるとしていた憲法解釈を改変し、集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行い、15年に安保法制（戦争法）を成立させました。

私たちは、「集団的自衛権の容認の撤回」を求める国会請願署名を地域で取り組み、戦争法に反対する運動にも参加し、「戦争法の廃止を求める統一署名」（2000万人署名）に力を注ぎました。このような運動が、市民運動を大きく発展させ、「市民と野党の共闘」を実現させる弾みとなりました。この共闘は脈々として発展し、日本の政治を動かす原動力となりつつあります。

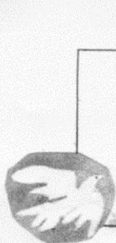
17年には、憲法9条に自衛隊を書き込む明文改憲案を打ち出し、成立に強い執念を示しました。「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」（3000万人署名）を行い、広範な国民との連帯したたたかいで改憲を阻止してきました。

安倍首相は20年9月に辞任し、菅政権となりました。菅政権は発足間もないですが、「壊憲」を引き継ぐ姿勢が鮮明です。イージスアショア配備の断念に伴い、他国のミサイル発射施設などを直接攻撃する敵基地攻撃能力についての検討を始めています。「他国を攻撃するような兵器を持つことは憲法の趣旨でない」との政府解釈の変更を狙っています。

安倍政権で繰り返された、「壊憲」を繰り返させないために、さらに「改憲」の修復を求めて、今後もねばりつよい活動を続けていきましょう。

嬉しいニュースがあります。核兵器禁止条約が国際条約として来年1月22日に発効するのです。憲法9条が世界の平和の規範となることをも夢ではありません。この希望を活動につなげたいと思います。

(代田2丁目・坂本 功)



代田・九条の会News

第 1 号

2008. 11. 11

<連絡先>

小澤清子 電話・Fax

03-3487-3985

菊池政枝 電話・Fax

03-3419-3041

憲法公布60年の11月3日

「代田・九条の会」発足！

11月3日、日本国憲法公布60年の「文化の日」の午後、「代田・九条の会」発足のつどいが代田区民センターでおこなわれ64人が参加しました。

2008年11月発行のニュース第1号の一部



代田・九条の会」の生い立ち

九条の会は、2004年6月10日に、井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、小田実、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔、三木睦子氏ら9人の知識人（現在は、大江、澤地の両氏のみ生存）が、日本と世界の平和のために日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲の企てを阻むため、一人ひとりができるあらゆる努力を今すぐ始めることを訴える」というアピールを出したことに始まる。これに呼応して、初めの一年間に3千以上の草の根の「九条の会」が全国の各界・各地に自発的に結成され、その後の数年間で7千5百に達した。

われわれ「代田・九条の会」もその一環として、代田地区の20人の呼びかけ人の下、数回の準備会を経て2008年11月3日（憲法公布の日）、代田区民センターに60名余の参加を得て元気よく結成された。

その場で会の名称・申し合せ事項などを確認し、年の功で私が代表とされ、十人ほどの積極的なメンバーが事務局として運営にあたることとなった。毎月会報を発行（この号は144号である）。5月の憲法記念日と11月の創立記念日に講演会などのイベントを企画（会場は東京都民教会、ナザレン教会、代田教会を主に借用）、その他機会のあるたびに戦争体験を語る会や戦跡巡りなどのイベントを企画するという方針の下、実行してきた。

第二次安倍内閣成立後、2014年からは、安保関連法制反対の街頭署名行動などにも参加することになって今日に至っている。（詳細は以下の表と写真に示した）

九条の会のアピールは、我々を含むたくさんの人々によって承継され、改憲の企てを阻止しているのである。

（代田5丁目・野間口 至）

空襲で焼けた
田乘院の高野槇



横須賀の地下施設跡



「九条リンゴ」
好評です



	3～4月	5月：憲法記念			
2008					
2009	東京大空襲戦災資料センター（見）	「軍隊を捨てた国：コスタリカ」（映） 山本洋子（話）			
2010	衆議院比例定数削減と憲法9条（学）	嬉野京子（話） 「沖縄に心をつないで40数年」 陳曦（チェン・シー）（歌）			
2011	旧陸軍登戸研究所（見）	金子勝（話） 「どうなっている憲法九条－新「防衛大綱」と海外派兵」 日色ともえ（話）			
2012	新宿区戦跡（見）	仲築間卓蔵（話） 「憲法とメディア」 制服向上委員会（歌）			
2013	「自民党憲法草案」（学） せたがや平和資料室（見）	川村俊夫（話） 「憲法9条の新たな危機に抗して」 サークル・ポエム（朗）			
2014	「解釈改憲と集団的自衛権」（学） 世田谷の戦跡（三宿・池尻）（見）	丸山重威（話） 「安倍改憲戦略とメディア」 杉並9条の歌合唱団（歌）			
2015		白神優理子（話） 「憲法九条・集団的自衛権をめぐる動き」 立川談之助（落）			
2016	横須賀の戦争遺跡（見）	森孝博（話） 「日本国憲法を巡る情勢と展望」 東大原コーラス（歌）			
2017	横田基地横・座り込み	新垣毅（話） 「命どう宝と平和主義」 渋谷がじゅまる（歌）			
2018		金子勝（話） 「最近の憲法をめぐる動き」 須田晶子（朗）／湯沢勉（紙）			
2019		八法亭みややっこ（こと飯田美弥子 弁護士） 「八法亭みややっこの憲法噺」			
2020	コロナ禍でニュース発行のみ				
	（見）：見学	（話）：お話	（映）：映画	（学）：学習会	（朗）：朗読

いのち 高岡岑郷

生まれたとき、この国は戦の最中だった
子どもとき、夢は戦に行くことだった
学校では「現人神」のために
往け、戦え、死ね」と教わった

まだ子どもだった時、この国は戦に敗れた
戦いをしない国に生まれかわったこの国で
花を愛で、人を愛して
生き永らえて、生きつづけたいのち
いまの夢は

日本国憲法第九条を

無傷のまま孫たちに手渡すこと

二〇〇四年六月一〇日 詩人会議発行 誌のパンフより

故・高岡岑郷さんは、代田九条の会の呼びかけ人・事務局員として活動されました。



8月：終戦

11月：創立記念

	金子勝（話） 「憲法九条誕生物語」 大原穰子（朗）
平和のための戦争展（見）	小澤隆一（話） 「新しい政治の流れの中で憲法をどう生かすか」 橋家扇三（落）
「千羽鶴」（映）	伊藤千尋（話） 「世界から見た憲法九条」
「ひとりっ子」（映）	ドラリー（朗）
「ハーツ・アンド・マインズ」（映）	小倉志郎（話） 「私たちは原発と共存できない」 佐藤真子（歌）
渡辺享子（紙）	朴慶南（話） 「私たちは幸せになるために生まれてきた」
加藤榮一（話）	渋谷がじゅまる（歌）
寝床家道楽（落）	高橋哲哉（話） 「日本国憲法を鍛え直すー『いのち』の視点から」 タジマジック&わか葉（マジック）
石堀四郎（話）	青井未帆（話） 「憲法九条はいまどうなっているのか」 南部合唱団（歌）
佐々木繁男（話）	小澤隆一（話） 「戦争法廃止・改憲阻止の展望と九条の会の課題」
「ああ声なき友」（映）	東京年金者組合合唱団（歌）
	金子勝（話） 「侵略戦争をするための安全保障関連法制と日本国憲法」
「ひめゆりの塔」（映）	砂原・矢川（歌）
「はだしのゲン」（映）	石田勇治（話） 「なぜ民主的憲法下のドイツにヒトラー独裁体制が生まれたのか？」 栗原小巻（話）
鈴木郁子（弾き語り） 「平和をわれらに」	清水雅彦（話） 「自民党憲法九条改憲は、日本をどう変えるのか、・・・」
「ザ・思いやり」パート2 －希望と行動編－（映）	森孝博（話） 「改憲をめぐる動き」



小澤隆一さん



栗原小巻さん



「命令するのはわれわれだ」

菅義偉という人のイメージは、首相に就任したとたん「パンケーキおじさん」から一気に「独裁者」へと変わってしまいました。でもそれはあくまでもイメージ、この民主国家・日本に独裁者なんて、存在できるわけがない……のでしょうか。

そもそも、近代民主国家は、国民が自らを独裁者から解放したことによって生まれました。絶対君主が臣民を支配していた18世紀のフランスで、命令する・される、支配する・されるの方向を180度転換する大変革を国民が勝ちとったのです。「王令」に代わるもの、すなわち、国民が権力に命令し、独裁者が生まれぬようその動きを支配する仕組みが、議会によって定められる法律でした。憲法によって権力を縛る「立憲主義」が民主国家の基本とされますが、憲法だけでなくすべての近代法の本質はもとも、権力を縛ることにあったのです

さて、ヒトラーは、大恐慌後の社会不安を背景に、命令の方向を再逆転するような法律を作って憲法を骨抜きにし、独裁者になりました。ただそのために彼がとった強引で暴力的な方法は、さすがに現代の日本の権力者には容易なものではない。議会での圧倒的多数をもってしても、憲法改定はおろか、彼らにすれば不本意に「薄められた」共謀罪法を通すのがやっとなのです。

でも、油断してはいけなかった。命令を変えられないなら、それを無視してしまおうと、彼らは考えました。むろん、命令に背けばこれを正す「司法」という仕組みが用意されているのですが、彼らはこの仕組みを、悔しいけれど命令には沿っている「人事権」なるものを悪用して、正常に働かなくしてしまっているようです。

命令違反を問いただしても、デタラメな言い訳を繰り返し、あるいは不敵に口をつぐむ。しかし、不毛にも感じられる追及に倦み疲れて、うっかり許してしまったら、いつの間にか命令権を独裁者にうばい返されてしまうことになりかねません。

命令するのはわれわれだーきちんと総理に言い渡すべきときは今です。(梅丘・真藤 一彦)

集会等の紹介

**以下の案内があります。今後の状況によっては中止されることもありますので、ご注意ください。

1月22日(日) 午後1時～

横田基地にオスプレイはいらない 11.22 東京大集会

会場 : 福生市・多摩川中央公園 (JR 青梅線・牛浜駅より徒歩 12 分)

主催 : オスプレイ反対東京連絡会

1月21日(木) 午後6時半～

市民大集会 「私たちは戦争を許さない — 安保法制の憲法違反を訴える —」

基調講演 : 又坂常人さん (信州大学名誉教授)

「安保法制違憲訴訟の歴史的意義」

特別報告 : 伊藤 真さん (安保法制違憲訴訟の会 共同代表)

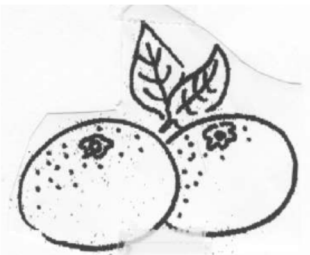
「違憲訴訟の現状と課題」

会場 : 日本教育会館

参加費 : 500 円 チケットぴあ P コード : 645-509

主催 : 安保法制違憲訴訟全国ネットワーク

協賛 : 総がかり行動実行委員会



日本国憲法 (抜粋)

第二章 戦争の放棄

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

○2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++